

第16期第12回島根海区漁業調整委員会

日 時：令和6年6月10日（月）14:00～16:30

場 所：松江市朝日町478-18 松江テルサ中会議室

出席委員の氏名：福田 薫 （1番）、堀 浩之 （3番）、寺本 太 （4番）、
倉田 健悟 （5番）、小川 喜美夫 （6番）、月森 久樹 （7番）、
渡邊 恭郎 （9番）、矢倉 淳 （10番）、福島 充 （11番）、
青山 善一郎 （12番）、梅田 信男 （13番）、中東 達夫 （14番）
欠席委員の氏名：樋野 博實 （2番）、永松 正則 （8番）、大野 賢三 （15番）

1. 開 会

（事務局長が開会及び会の成立を宣言）

2. 挨拶

【議 長】省略

【横田次長】省略

3. 議 事

- (1) 資源管理方針の変更について（諮問）
- (2) 知事管理漁獲可能量の設定について（諮問）
 - ①令和6管理年度 さば類
 - ②令和6管理年度 ずわいがに
- (3) 知事許可漁業の制限措置等及び許可の有効期間を定めることについて（諮問）
- (4) 令和6年度全漁調連（日本海ブロック会議）への要望事項について（協議）
- (5) 知事管理漁獲可能量の変更について（報告）
 - ①令和5管理年度 さば類
 - ②令和6管理年度 まあじ
 - ③令和6管理年度 くろまぐろ
- (6) 資源管理の状況等の報告について（報告）
- (7) 海区漁業調整委員会の委員選任について（報告）

(8) その他

①資源管理の進捗状況について

4. 議事の概要

【事務局長】 (議事に入る旨宣言。議長に議事進行を依頼。)

【議長】 (議事録署名人に青山 善一郎(12番)、梅田 信男(13番)を指名。)

(1) 資源管理方針の変更について(諮問)

[水産課 説明]

【議長】 ただいまの説明につきまして、御質問、御意見がありましたらよろしくお願ひします。

今回の対象漁業は実質的には小型底びき網と思いますが、そういう立場から何か御意見等はございますか。

【月森委員】 これは少しでも増えるってということですかね。文章はちょっと分かりづらいですけど。違いますか。現行は実績がなかったらTACは配分がなくなると。それで少しでもあればTACの配分しますよということ、現状よりも少しはいいほうに解釈をできるということでしょうか、漁業者側からすれば。どうですか。

【水産課】 TACの配分がなくても全く1キロも獲ってはいけないということではなくて、今までも50キロほどは獲れています。ただ、そのTACの配分を受けないことによって、国への数量の報告の義務が今はない状況でございます。ただ、国としては少しでも水揚げがあるんだったら、それは国に報告してねと、その義務を果たすためにやるのが今回の現行水準ということになります。だから、獲れる量が増えるというわけではないです。

【月森委員】 ないっちゅうことですね。はいはい、分かりました。

【堀委員】 私もはっきりした記憶はないんですけど、以前、小底でズワイが獲れてたとき、組合のほうから数量がきたからっていう数量制限の話があったと思うんですけど、月森さん、たしかありましたよね。

【月森委員】 ありました。何年か前にありました。

- 【堀 委 員】 どこからその数量制限というのが出てきたんですかね。
- 【月森委員】 これは漁協からストップが入りましたんで、やはり県じゃないですかね。
- 【堀 委 員】 どうですかね、これ国からか県からか。どうなんでしょうか。
- 【水 産 課】 今回、現行水準というTAC配分があるんですけども、その前に配分がなくて、さらに令和2年の法改正より前には、この現行水準というのは言葉が違って若干という配分を県は受けておりました。そのときに、今回の現行水準もそうなんですけれども、今以上に狙ってたくさん獲りにいかないようにというのが、この現行水準であったり若干だったりするんで、過去の漁獲実績と比べて、量がすごく増えてきたなっていうときには漁獲量を抑えてねというお願いをしたのかもしれない。これが今後ずっと数字がある程度伸びるようだったら、今度ははっきりと島根県に対して何トンまでですよという数字が国から示されるようになります。
- 【堀 委 員】 じゃあ、以前にあったその制限っていうのはお願いっていう理解でよろしいんですか。
- 【水 産 課】 そうですね。
- 【堀 委 員】 分かりました、ありがとうございます。
- 【議 長】 今までは数量に関する取決めはなかったけれど、だからといって積極的に獲ってもいいよという意味ではないんだというようなことを踏まえて、そういう指導があったという感じなんですかね。
- 【議 長】 その他、御意見等ありますでしょうか。
- 【委員一同】 (意見等無し)
- 【議 長】 それでは、本件については、異議ない旨、答申することといたします。

(2) 知事管理漁獲可能量の設定について(諮問)

[事務局 説明]

- 【議 長】 本件につきまして、御質問や御意見がありますでしょうか。
- サバのTACですけど、13ページの下グラフのほう見ましたら、この2年ぐらいですかね、3月以降の漁獲が急激に立ち上がって、将来が読みにくい感じになっておりますけど、5年度を見ますと、3月の時点

で非常に微妙な漁獲量になって今後どうなるかで、まだ直近の資料がないのであれですけど、実際のところはどんな感じなんですか。分かりますか。

【渡邊委員】 実際は、イワシがかなり春先から獲れてまして、マメサバとの混獲で獲れとるような状況ですんで、今後やっぱりイワシが少なくなってサバの量が増えていくんじゃないかなとは思っております。

【議長】 事務局、何か全体の資料は、直近のやつはありますか。

【事務局】 サバ類の令和5年漁期の漁獲実績、この13ページでは、3月の段階で止まっているところがございますが、6月8日時点の速報値で、県全体で1万8,500トンまで積み上がっている状況でございます。

【議長】 結構ぎりぎりになってる。

【事務局】 13ページのところは、当初配分のTACということで、令和5年漁期のところ、うち島根県1万8,700トンと書いてございますが、管理をする上でこの当初に配分された数量だけではなくて、国の留保からの追加配分などもございます。現時点のサバ類の島根県のTACは2万7,600トンございまして、消化率が67.3%となっております。

【議長】 何とも言えない数字ですけど、何とかいけそうな感じですか。

【渡邊委員】 これから多分サバが少し増えていくような気がしますね。イワシはちょっと少なくなってきているような感じがいたします。

【議長】 そのほか御意見等はございますか。

【委員一同】 (意見等無し)

【議長】 それでは、本件については、異議ない旨、答申することといたします。

(3) 知事許可漁業の制限措置等及び許可の有効期間を定めることについて (諮問)

[事務局 説明]

【議長】 本件につきまして、御質問や御意見がありますでしょうか。

【委員一同】 (意見等無し)

【議長】 それでは、本件については、異議ない旨、答申することといたします。

(4) 令和6年度全漁調連（日本海ブロック会議）への要望事項について（協議）

〔事務局長 説明〕

【議長】 本件につきまして、御質問や御意見がありますでしょうか。

【委員一同】 （意見等無し）

【議長】 ありませんか。それでは、継続事項ばかりでございますので、特に意見がないということで、本件については異議なしということで事務を進めたいと思います。

(5) 知事管理漁獲可能量の変更について（報告）

〔事務局 説明〕

【議長】 本件につきまして、御質問や御意見がありますでしょうか。

【渡邊委員】 島根県のアジ、サバ、イワシのほとんどの量を中型まき網が占めとるわけなんですけど、特に隠岐の船団がかなりの量を獲ってるんですけど、今、傾向として隠岐のまき網の運搬船がみんな大型化してるんですよ。中古船がもうほとんどないんで、200トン以上の運搬船を購入したり、それから造られるときもやっぱり船側からすると安全性とか居住性を考えると大きく造りたいっていうのもあって、それに合わせて搭載能力が増えてきて、直近で造られた船なんかでも300トンぐらい積む船もありますし、それを考えるとこれからの、アジはそうでもないと思うんですけど、サバとイワシの漁獲がかなり増えてくるんじゃないかと思うんで、早めに島根まき網のほうで自主規制である程度水揚げを制限して獲るような方向に持っていかないと、すぐ漁獲可能量になってくると思うんで、そこら辺はどう考えられておられるかちょっとお聞きしたいんですけど。

【水産課】 まず、今年も2月からサバが最初獲れて次にイワシが獲れて、島根県まき網漁業協議会としても、1隻当たりの制限をしていただいているところです。それで、資源評価があってその評価に基づいて国全体のTACがまず決まっているので、それが島根県以外のところで余ってるんだったらそれをうまく使うというのも一つの考え方ですし、評価だったりTAC以外にも陸上の処理能力で制限がかかることもあると思いますので、そ

ういふのを見ながらうまくTACを消化していけるように、島根県まき網漁業協議会とも話をしながら操業していただきたいなと思っているところでございます。

【渡邊委員】 中型まき網の場合は本船が許可船で19トンという制限があるんですけど、運搬船は附属船でトン数の制限がないんですよ。ですから、そこら辺がやっぱり大きくなってもしようがないのかなという気もせんでもないんですけど、あまり大きくなると、今度全体で獲る能力が増えてくるんで、そこら辺がちょっと心配っていうところがあります。そこら辺も島根県まき網漁業協議会の内部で同業者同士の協議をしないといけないところはあると思うんですけど、それぞれの船団の人が考えてやるところのほうが多いんで、なかなかそこら辺は難しいとは思いますが、このまま運搬船が大きくなっていったらいいんかどうかっていうところもちょっと心配なところがあります。なかなか難しいです。答えが出るあれじゃないんで、そういう現状があるっていうことを知ってもらいたっていうようなことです。

【議長】 突き詰めていくと個別割当ての話になるし、その運搬船のトン数の上限を自主規制であるとか何か規制でやるとかそういうことも入ってくるので、なかなか。

【渡邊委員】 自主規制で100トンとか、今は130トンまでいってるんですけど、多分それぎりぎりでも獲るよりはオーバーしとる部分もあると思うんですよ。そうするとやっぱり積み重なるとやっぱりTACにだんだん近づいてくるというところの心配もあります。なかなかこれを制限せえっていうのもなかなか難しいところなので、そういう状況です。

【議長】 そのほか御意見はありますか。

【青山委員】 ちょっとクロマグロの件でお伺いしたいんですが、今、令和5年度管理年度の消化率何%って書いてあるんですが、これはいわゆる次年度の島根県の枠が増えるとか減るとか。大体どれぐらいのラインだといいいのか、枠が決まるときに大体70とか80超えとかんといけんとかいいとかそういうものっていうのがあるんですか。

【水産課】 一定の消化率になると、消化率メリットといいまして国からもらえる枠自体も少し増えることはございます。ただ、島根県が次の年に繰り越せる上限は10%としていますので、今回小型魚であれば約9トンが繰り越せる上限と決まっている状態。その上で国から追加配分が行われたときに消化率が高ければ少し増えた追加配分がもらえるという状況でございます。

【青山委員】 どうしてそういうと伺ったかっていうと、うちの話をするんですが、定置網は年間操業する冬網するところと夏網するところとあるわけですね。夏網するところだと冬はもうやらないわけですから、枠が残ってるところがある。個人的なことを言うようですが、うちは冬網をやります。どこが余ってるかとかということも3月には一生懸命に探す。その消化率のことがもしあるのであれば、何月になったらある程度オープンにさせていただいて、例えば、3月15日になったらある程度、オリンピック方式じゃないですけど、オープンで獲らせてもらえれば一番ありがたいですけどね。今、分けていただくのに、各会社それぞれ、各地方それぞれ違うんですけども、何割、売上げの何%渡す、何十%渡すという形でやってますので、ただ、個々それぞれがやるには少し限界を感じておりまして、そちらのほうにも伺いを立てながらやりはするんですけども、もう少し際になったら、こういった率のことも考えれば良い案ができるもんなのかなってというのは、改めてまたお願いしたい。よろしくお願いいたします。

【水産課】 ありがとうございます。またいろいろ皆さんとお話しながら考えていきたいと思えます。

【議長】 そのほかございますか。

【委員一同】 (意見等無し)

【議長】 それでは、報告でございましたので終わりたいと思えます。

(6) 資源管理の状況等の報告について (報告)

[事務局 説明]

【議長】 本件につきまして、御質問や御意見がありますでしょうか。

【委員一同】 (意見等無し)

【議長】 それでは、報告でございましたので終わりたいと思います。

(7) 海区漁業調整委員会の委員選任について (報告)

[事務局長 説明]

【議長】 本件につきまして、御質問や御意見がありますでしょうか。

【渡邊委員】 コロナのときだったと思うんですけど、島根海区と隠岐海区とリモートでやった会議があったんですけど、そういう隠岐と島根海区の交流というのは今後、考えられるんですかね。

【事務局長】 また時期が来ましたら、連合海区ということで主に委員会指示の更新時期に開催したいというふうに考えております。

【議長】 そのほかございますか。

【青山委員】 4番のスケジュールですけど、これ令和6年のってことですよ。

【事務局長】 そうですね。今年の8月になります。

【議長】 そのほかございますか。

【委員一同】 (意見等無し)

【議長】 それでは、報告でございましたので終わりたいと思います。

(8) その他 ①資源管理の進捗状況について

[事務局 説明]

【議長】 ただいまの情報提供でございました。

以上で、予定した全ての議題を終了しましたけど、今のも含めて全体を通しての御意見、御質問がありましたらよろしくお願ひします。

【福田委員】 その他なんですけど、ちょっと時間たちましたけど、12月の委員会でちょっとお話ししました旧平田沖での中型まき網の灯火の数が多いっていう話をさせていただいたんですけど、その後の県の対応はどうされたかいうのお聞きしたいんですけど。

【水産課】 福田委員のほうから12月そういった情報提供がありまして、その後もちょっと詳しいところ聞かせていただいたと思いますけども、その情報を踏まえて県の取締船「せいふう」で巡視に行きました。そのときの結果からいうと、中型まき網の灯船の隻数については適正な範囲でやっていたと。取締船が来たという部分もあるかもしれないですけども、見に行ったときにはなかった、そういった違反は確認されませんでした。それと、補足いたしますと、そのときに近くにイカ釣りの漁船も結構いたということで、陸上のほうから見ると中型まき網とイカ釣りの灯火はなかなか区別がつかない部分もあったのではないかとということ。県としてはそういった対応をさせていただいたということなんです。

【福田委員】 あれが12月の3日の確認だったと思うんですけど、4日の会議でお話しさせていただいて、その夜、「せいふう」が出られたんですかね。

【水産課】 その日の夜ではなくて、少し日にちは置いておりましたけども、漁場としては小伊津の沖合のほうでしたので、大体同じようなところだったと思っております。

【福田委員】 私も漁に出とって、ちょっと空が暗いな、今夜は暗いなっていう印象があった、数えたら18あったと思います。それが4日の夜だったと思います。まき網組合のほうに何かファックスなどを入れられたんですかね。

【水産課】 注意喚起のファックスも流させてもらって、その上で「せいふう」での取締を行っております。

【福田委員】 その後、まき網団体に対して何か話合いとかはないんでしょうか。

【水産課】 注意喚起のファックスを送りまして、その後そういった情報等もなく、「せいふう」でも適正な操業を確認できましたので、改めてまき網団体とそういった協議はしておりません。

【福田委員】 分かりました。

【議長】 そのほかございますでしょうか。

【倉田委員】 個人的に知りたいことがあってお聞きしたいんですけども、マサバとゴマサバの漁獲が最近5月、6月に急激に伸びてるっていうところなんですけども、これについては島根県の沿岸だけでこういうことが起こって

いるのか、それとも全国的にそういうふうな傾向がここ数年起こっているのかというのをちょっと教えてほしいということと、例えばこういうふうに漁期の最後のほうにたくさん獲れるような状況になると、獲っても獲っても安く売れてしまってあまりもうからないという状況なのか、それともやっぱり獲れるだけどんどん売れるということなのか。もしそうであればかえって獲らずにおいたほうが次の漁期に持ち越したほうがいいような気もするんですけども、どういう状況なのか教えていただけたらと思います。

【水産課】 サバに関してですけども、全国的にかなり高水準な漁獲というのがありまして、特に島根県では5月、6月にかなり積み上がってきていますけども、量としては西のほうがだんだん増えてきている傾向もありまして、長崎とかはもう少し早い段階で増えてきている状況で、全体的に資源状態は少し回復してるという状況にあらうと思っております。それと、漁獲と単価等の傾向ですが、これだけTACが厳しくなってくる中で、漁業者さんもある程度単価を見ながらの漁獲も心がけてるところもありますし、あと陸上での処理能力もあって、どんどん獲っていくよりはいろいろ考えながらTACの枠の中で管理をしている状況にあらうかと思えます。

【議長】 そのほかございますでしょうか。

ありませんようですので、本日の議題を終了したいと思います。

事務局から次回の開催予定について説明をよろしくお願ひします。

【事務局長】 次回の開催予定ですけれども、知事管理漁獲可能量の設定などを御審議いただくために、12月の開催を予定しているところでございます。

5. 閉会

【議長】 (閉会を宣言 16:30)

県職員及び事務局員として出席した者の職・氏名

農林水産部	次長	横田 幸男
水産課	課長	道根 淳
	管理監	秋山 昌宏
	課長補佐	池田 博之
	主任	白石 陽平
	主任技師	新宅 祐児
東部農林水産振興センター	水産部長	小谷 孝治
	水産課長	曾田 一志
	主任	竹谷 万理
西部農林水産振興センター	水産部長	原 修一
	主幹	渡邊 至誠
水産技術センター	所長	安木 茂
島根海区事務局	事務局長	伊藤 博理
	主任書記	高橋 一郎
	主任書記	寺谷 俊紀

以上、議事の内容を記し、その相違ないことを認証する。

令和6年6月10日

議 長

中 東 達 夫

議事録署名者

青 山 善 一 郎

議事録署名者

梅 田 信 男